

原油高や世界景気の回復を背景に、 堅調な推移が期待される資源国通貨

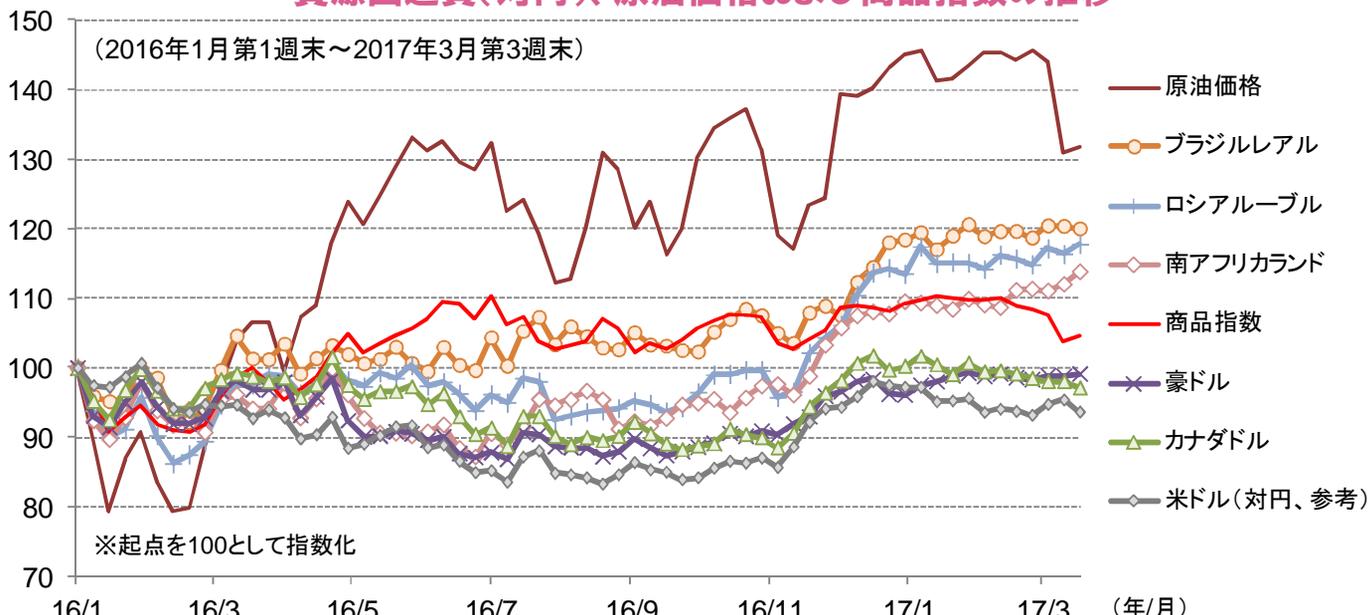
昨年後半以降、資源国通貨は上昇傾向となっています。

その背景には、主要国・地域の景気回復に加え、OPEC(石油輸出国機構)による原油の協調減産をめざす動きなどを背景に、原油を中心とした商品価格に持ち直しの動きがみられたことや、11月の米大統領選挙以降、トランプ氏の経済政策などへの期待から、金融市場で投資家のリスク選好姿勢が強まったことがあります。また、米利上げは金利差縮小の観点から資源国通貨の重石となってきましたが、3月の米FOMC(連邦公開市場委員会)でFRB(連邦準備制度理事会)が追加利上げを決定したものの、今後の政策金利見通しが大きく変わらなかったことで、利上げペースは加速するとの見方が後退し、米ドルが売られ、資源国通貨が買われる要因となりました。

IMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによると、2017年の世界の経済成長率は3.4%と、16年の3.1%から加速が予測されているほか、景気低迷が続いたロシアやブラジルなどの今年の成長率は、商品価格の上昇などを背景にプラス成長に転じる見通しです。世界経済の拡大が続けば、原油や鉄鉱石などの商品需要が高まりやすくなることも、資源国経済の追い風になるとみられます。こうしたなか、米利上げが緩やかなペースで行なわれ、急激な米ドル高につながらないようであれば、一般的に米ドル建てで取引される商品にとって「心地よい状況」が続くと考えられます。

原油などの商品価格には、需要の大きい中国の景気や米国の原油生産などの動向次第では、下落圧力がかかる可能性があります。しかし、主要国・地域の景況感は製造業を中心に改善傾向となっており、さらなる景気回復が示唆されることに加え、米ドルの上昇にも落ち着きがみられることなどから、資源国通貨は堅調に推移すると期待されます。

資源国通貨(対円)、原油価格および商品指数の推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。